

平成 26 年度 第 2 回 多摩六都科学館組合事業評価委員会 会議録	
日 時	平成 26 年 7 月 2 日 (水) 午前 10 時から午前 11 時 50 分まで
開催場所	多摩六都科学館 2 階 201 会議室
次 第	1 前回会議録の確認 2 平成 25 年度の事業評価について 3 平成 26 年度の事業計画について 4 その他
出席者	小谷委員、佐々木委員、柴田委員、杉浦委員、桧森委員
欠席者	なし
決定事項	●本日決定した事業評価報告書の内容を委員長から管理者に報告する。また、同内容を 7 月 24 日 (木) の議員研修会で報告する。 ●今年度中に科学館の見学会を開催する。
資 料	(事前配布資料) (資料 1) 平成 25 年度多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理者業務評価報告書 (案) (当日配布資料) (資料 2) 平成 26 年度 多摩六都科学館 指定管理者事業計画書
特記事項	

坂口事務局長

次第の確認、資料の確認、駐車場図面について説明

説明会の実施、案内の標識の設置、来年2月の完成を目指す。

1 前回会議録の確認

委) 事前に配布していますが、ご意見などございますか。意見なしでよろしいですか。

2 平成25年度の事業評価について

組) 資料1をご覧ください。皆様からいただいたご意見と評価結果となる評点をまとめたものが資料1となります。目次の5の評価基準以下、6の評価結果が変更した点がございまして、変更があった点についてご説明させていただきます。10ページをご覧くださいませでしょうか。評価基準と着眼点というものになります。9ページに重点目標として平成25年度指定管理者で設定した重点目標が掲げられています。これらの重点目標に対する各個別の事業をどういった基準、観点で評価し、モニタリングしていったのかが10ページ以下となります。8ページには毎月実施しておりますモニタリングの実施状況として月例の報告会、四半期の報告、アンケートの報告といったようなものが記載されております。続いて、評価結果になりますが14ページ以下となります。総合評価の表6は皆様にご確認いただいたとおりの内容となっております。14ページの下に注としてこの間の委員会でもAといってもA+もあるけど、A-もあるのではないかと、B+もあるのではないかとということのニュアンスを入れた方がいいのではないかとということで入れてあります。6-2の評価の総評ですが、14項目について委員の皆さまのご意見と評点そのもの、A+、A-のニュアンスのあたりについて記載させていただきました。20ページをご覧くださいませると、平成25年度の収支に基づく経営指標について記してあります。事業収支を見ていただきますと2,000万円ほどとなっており、黒字化率が5パーセントとなっております。収入については、利用料金比率として次の指標になりますが、指定管理料は組合がお支払いするものであります。その他の収入、利用料金収入は指定管理者さんの収入となります。利用料金収入ですが、当初9,000万円と予定していましたが、1億2,300万円ほどとなり、3,300万円ほどの増収となっております。備考のところに書いてありますが、9,000万円を超える部分についてはまずは目標を達成しているということになりますが、9,000万円を超えた部分の30パーセントは組合への還元金として組合財政にとっても好材料ということになっております。外部委託比率という指標についてですが、これは丸投げのようなことはしないという抑止的な効果を狙う指標であります。25パーセント以下に抑制するということでありますので、これも特に問題はありません。後は利用者当たり管理コスト、利用者当たり組合負担コストですが、これは利用者人数で割ったコストとなります。実績で20万8,999人という利用者数がありましたので、目標の18万人を大きく上回ったということになります。それに伴い管理コストも、目標の2,000円を下回ることができました。これは公費負担比率というものにも影響が出てくる数字で、実際のところお客様一人あたりのこれだけのコス

トがかかっているけれども、入館料自体は 500 円、観覧料は 500 円ということでその差は公費で補てんするということになるので、公共施設の運営を考えていく際に一つの基準となり、受益者負担はどの程度が適正なのかも含めて目安となってくる数値とと思っていました、当面の目標としては 2,000 円までということでおいていたわけでございます。以上のようなことから、経営分析指標としては、当初目標を大きく上回って優秀な成果が得られているというふうに考えられます。21 ページ以下は指定管理者さんより報告があった収支の内訳となっております。22 ページは自主事業、カフェテリア、ミュージアムショップ、自動販売機の収支の内訳となっております。おおむねこれらも健全な経営がなされているというふうに理解をしております。

長) それでは、今の説明で何かご質問はございますでしょうか。

なければ、15 ページの評価の総評ということで、これは前回の委員会での委員の意見を事務局でまとめていただいたものとなりますが、それぞれ 14 項目ありますが、簡単に見えていて付け加えること、修正するところがあればご意見いただきたいと思います。

(以下、1 利用実績から 14 経営管理までの評価の総評の確認)

(ひととおり各項目を確認して意見があれば発言することとする。)

長) 以上が評価の総評ですが、強調することや付け加えることはありますでしょうか。

委) 前回会議の内容をうまく織り交ぜていただき、ありがとうございます。8 番の顧客開発についてですが、あらためてまとめたものを拝見してもマイナスの要素が見受けられないので A+ でいいのではないかと思うのですが、ご議論していただければと思います。個人的には、よくされていて、足りないところのデータをとったり、やり方を変えたり、それを踏まえてすぐにやれる対応をして、先々のことを見据えてやっているということが前回の会議で確認できている、また友の会の急増ぶりもありますよね。何で A+ にしなかったのかなと思ひまして。

長) 今後順調に伸びていけばいいですよ、懸念は駐車場の問題ですけれども。今年も夏の大事な時期に使えなくて、去年以上のお客さんが見えになると大変ですよ。館の努力でどうにかなるものではないのですが、心配ですね。他の委員の皆さんはいかがですか。

委) もっとやってくれたら来年 A+ でもいいかなと。一つだけ申し上げたいのは、この中でたとえば安全管理業務だとか設備管理業務というのは決められたことを決められたとおりにきちっとやってくれたかどうかの評価のポイントとなると思うのですが、それ以外の部分については、わざわざ民間の指定管理者に任せた以上、常に改善、革新をどんどんやってくれている状態であれば評価したいというふうに思うんですね。もし今回仮に顧客開発を A+ として、来年同じ状態でしたという報告があったとしたらそれはもう A+ ではな

いと思うんですね。今年この状態をキープしてくださいというのを我々は言っているのではなくて、来年はもっとやってくださいと、常に繰り返して新しくしていくということが一番評価できることなんじゃないかなと思います。ここは A+でもいいと思いますけれども。

長) これだけの集客数、友の会の状況、そういうのを見ると非常に成果が上がっていますし、自己評価と外部評価が全部同じなので一つぐらい違っていいかなとは思いますが、ただ、駐車場の問題がありますので、土日ではなく平日の利用者を増やすということで有効な手立てを打てるかということだと思いますので、そういった努力が今後望まれる、今後やっていかなければいけない一番の問題だと考えます。

委) 顧客開発と利用実績をどうやって分けるか、確かに利用実績は数字で現れてきますが、顧客開発はというと、新しい層、新しいお客さんが増えていて開発できたことになりませんが、新しい顧客層だということがはっきり見えていないですね。友の会員が増えているというのは確かですが、開発したものかどうかは分かりません。顧客開発と利用実績の切り分けがどうもはっきりしなくて、このままでいいかなと思っていました。顧客開発というのは、この委員会でも議論されたように、シニア層や未就学児童、学校関係など新しい切り口でお客さんを開発したということで A+になるのではないのでしょうか。でもここは、利用実績の大きな伸びを評価して A+でもいいかもしれません。

委) あともうひとつ A+になりそうかなと思うものとして5番の学習業務があります。ここも課題として対象者への情報発信があげられていて、これは広報 PR の課題として認識されている、学習業務としてはよくやっつけいらっしゃるのではないかなと思います。主軸業務でもあるので私は評価したいと思うのですが、主軸業務だから評価は厳しくした方がよいとはいえ。

長) リピーターをいかに増やすか、あるいはつなぎとめておくかということで新しいコンテンツを打ち出す必要があると、そういうことに関してはぜひぶん努力されていると感じます。後半の大人も楽しめる科学館というところではまだ十分に定着していない、ただし、IPMU など東大と連携してサイエンスカフェを実施するなどして、実施するとなると楽しみにしているファンが集まるというのが良い例だと思います。何かコアのファンを獲得するような企画を実施していけば、この場所でも増えていくかだと思いますので。顧客としてもシニアの方々に対する生涯学習という意味においても、非常に可能性があると思います。期待が強いんですね。

委) もうちょっとそこまでやってくれたら来年は A+ということで良いのではないのでしょうか。

長) 外部評価としては A+の評価が上がったが今年の評価は A で来年に期待するということが議事録に残しておくというのでいいのではないのでしょうか。A+の芽は出ていると思うので。

委) 2 ページの 1-3 事業評価委員会の事業評価の (3) で平成 25 年度は第 3 回 9 月 19 日に平成 24 年度の評価報告書の確認をしている訳ですよね、平成 26 年度は 7 月 2 日に平成 25 年度の評価報告書の確認をしている、これは今年のどこかでもっと早くして事業評価委員会の評価を活動に跳ね返してくださいと我々がお話をして、クイックレスポンスして下さったわけですよね、そのところはちゃんと評価の記録として評価報告書に残すのか、最低でも議事録に残して欲しいと思います。2 か月以上早くなったということは非常に評価できることですし、引き続きできるだけ早く前年度の反省をして PDCA をきっちり回していくことは絶対に必要なことなんですね、そのことを評価委員会として評価すべきことだと思います。

長) PDCA サイクルを回していくためには、次年度計画の前に前年度の評価が見えていなければならないということで、今回のスケジュールは非常に無理なさったのではないかと思います。

委) 非常に忙しい中でこのように早くして下さったことは評価すべきことだと思います。

長) 14 ページのところを時期を早めて評価の結果を事業計画に反映させるようなスケジュールに変えていただいた点を評価するというを入れば良いですかね。ここを支えている市にもこの評価報告書は手渡りますので、評価報告書の中に館あるいは組合、指定管理者が努力して取り組んでいただいたということを表記できればと思います。議事録よりもここに入っている方がいいですね。

委) 私もそのように思います。

長) ほかに何かございますか。では評価報告書の内容はこれでいきたいと思います。毎回行っていることなのですが、7 月 24 日に組合議会議員の研修会で評価結果の報告を毎年行っているのですが今回も私が行うこととなりますのでよろしくお願いいたします。

3 平成 26 年度の事業計画について

長) それでは続いて平成 26 年度の事業計画についての議題に移りたいと思います。ご説明をお願いします。

組) 資料 2 をご覧いただけますでしょうか。資料 2 は 2 つに資料が分かれておりまして、この A3 の資料は、第 2 次基本計画を達成していくための中期計画という位置づけとなっております。中期計画というのは、指定管理期間がちょうど 3 年ございますので、その 3 年間に対応したものと、それを事業評価にどう活用していくかというようなことをまとめたものとなります。したがって、年度ごとに指定管理者が決定する単年度の事業計画の上位計画となります。中をご覧いただきますと、1 ページ目は第 2 次基本計画の全体のコンセプトになります。多摩六都科学館の使命、めざすべき方向性・社会的な役割というのが上に書かれておりますがそれを実現するための活動理念と 5 つの事業目標が下にあります。これが基本になっておりまして、事業計画として科学館事業（中核事業）、それを取り囲むようにしてあるいはそれをベースにして発展していく地域拠点事業、こういう構造、イメージを持って策定されています。続きまして 2 ページ目以降は中期計画の中で重点的に取り組む事項、そしてそれをどのように計測していくかという業績指標の案をまとめております。この表の見方といたしましては、事業目標 (Goal)、取組方針 (Policy)、重点戦略 (Strategy) この 3 つは基本計画に基づいた部分になっています。そして右側の 2 つの列は中期で重点的に取り組む戦略 (Strategy) と業績指標 (案) (Performance measures) は中期計画として出されているものとなります。事業目標 1 では、主にこれまで科学館が行ってきた科学館の中核事業をさらに発展させていくための取り組むべき戦略それに対する業績指標がのせられております。3 ページ目の事業目標 2 では、新しく地域の交流拠点を目指すという路線を打ち出しましたが、この基本計画の路線に対応してこの 3 か年でどういう事業を展開していくかというのが中期で取り組む戦略となっています。たとえばボランティア活動の充実、友の会の市民モニター事業、あるいは賛助組織といったようなもの、科学を仲立ちとした交流の場と機会の提供ということで、これは事業計画の中にも織り込まれており、すでに実施されているものもあります。これらを図る業績指標の案としては、ボランティア活動に対する支援、その述べ人数、あるいはボランティア主催事業の回数やプログラムの開発数、友の会会員数などがあげられています。これらは一方的に定めるのではなく、指定管理者さんと協議しながら指定管理者の事業計画と対応した形で指標を設定していくということですので、この段階では案ということになっております。続いて 4 ページ目の事業目標 3 の多摩六都の魅力発信ということで、これは新しく打ち出した地域拠点事業の中でも最も野心的な部分ということが出来ます。ここは、今後の地域社会というのを広く見据えて科学館を拠点として地域を創っていくという事業に貢献できないかということが主な考え方です。そのためには地域の魅力発信ですとかもっと地域のことをよく知っていかなければならない、地域の方々にもどんどん加わっていただかなければいけないということで、そのための中期の重点戦略が今後の協働体制、地域支援をテ

テーマとした教育普及活動等をやっていきますと、これは一つには東大農場と連携した企画展の成功事例などもふまえて今後も展開していきたいということです。また、「地域づくり人」講座というのがありますが、これは地域づくりを行っていかうという方々がこの地域にたしかに数多くいらっしゃいます。それらの方々がそれぞれのテーマで独自にやられるんですけども、横串を刺すような部分がないのかなとあるいは各市でバラバラにやっているのを圏域5市ということで広域的に展開できる要素もあるんじゃないかなと、そういうものやっていくとなると多摩北部広域行政圏の中核事業である多摩六都科学館がふさわしいのではないかとすることがあります。それから将来的なことも考えて市民との連携、地域づくりを支援していくというふうになっていきますけれどもこれははっきり言って3年間で簡単にできることではないので、次期指定管理期間にもどういうことを達成していくのかをこの3年間で明らかにさせていきたいと思えます。これらの指標は右側にありますけれども、どういう取り組みをしたかという定性的な部分になってくる、いきなり定量的な部分が出てくるのではなくて、取り組みをどう評価するのかが重要になってくるのだと思えますので、このような指標になりました。続いて5ページ目となりますが、ここからは経営管理目標として事業目標4愛着の持てるロクトへとあります。主にマーケティングをテーマにした部分となっています。中期重点戦略といたしましては、アンケート調査の見直しとありまして、先ほども改善の成果が出ているとご指摘をいただきましたが、今後も精度を増していきたいと思えます。そうして利用者ニーズをしっかりと把握していきたいと思えます。またさまざまな取り組みですとかシャトルバスの運行なども始めまして、いろいろな取り組みを重ね合わせていくということがここで述べられています。

これらについては、かなり個別的なプログラムとして指定管理者さんの方からアイデアが出ておりますが、それに対応する形でどのような業績指標が考えられるのかということをつくっていききたいと。最後ですが、6ページに同じく経営管理計画の中で財政計画体制整備ということで、こちらの方はいわゆる持続的な科学館の発展を考えていくための規範といったものをサポートします。中期で取り組むものとしたしましては、賛助組織、ネーミングライツといったような新たな財源を確保し、ネットワークの整備、それから企画展などを通して常設展示の活性化など、これらも指定管理者さんのマネージメントに大きく関与していく部分と思えますが、組合といたしましてもこの科学館を持続的に運営していくための重要な要素として考えております。最後に7ページ目に中期・実績評価一覧フォーマットとありますが、今見てきたような中期で重点的に取り組む戦略方針あるいは指標といったものが、順次固まってきた段階で表の左側の方に項目が入っておりますが、それらの実施状況を各年度ごとに残りの3か年の中で、どういうふうに達成していったかが、経過が分かるように、比較対照が出来るように3か年の中での推移が記せるようになっております。定性的なものとしては自己評価、外部評価のところ項目ごとに記していきまして、単純に数字では表せないようなところもございますが、これらを作り込んでいくことで、事業評価委員会の方にもこの中期的な指標、目標がどのように達成されている

のかということの目標管理のご報告ができるのかなと思います。以上がこの各事業年度の上位計画になります。続きまして平成26年度の事業計画でございますが、こちらの方は指定管理者の乃村工藝社さんの方から説明させていただきます。

指) 来年度といいますか、すでに始まっておりますが、今年度の取組の指針となるお話しを伺いまして本当にありがとうございました。A-じゃなくてA+じゃないかというありがたいお話しもいただいて非常に励みになるなと思いました。今上位概念のお話しもありましたが、上位概念を受けて我々も昨年の10月くらいから3月くらいにかけて事業計画を作っていましたが、前々から事業の中身の区分け、地域連携事業と学習支援事業、展示事業の区分けがすっきりしないところがありまして、必死で分けようとしたんですが、まだきちんとした分け方にはなっていないので、組合さんともお話をしたんですが、走りながらちゃんと気持ちのいい分け方になっていけばいいんだというお話しをいただきました。

また、一番最初に考えたのが一番最後のページの上位計画について今後3年間何をするのかということが書いてあるんですね。事業の中身を大きく分けると科学館の本来の仕事としての中核事業と地域拠点事業というのをどうコミュニケーションをとりながら関係性を持ちながら、それとマーケティングと経営というのをどう組み合わせていくのかということですよと、具体的には何をするのかということをもまず考えたんですね。これを考えながら3月までに作った事業計画と整合性をとりながら、計画の着地点、ある意味では来年3月の着地点までどう持っていくかということ、これは非常に分かりやすく書いたと思っております、細かい項目を羅列、箇条書きにただけなのですが、それを村井さんが非常にビジュアルに分かりやすく書いていただいて、私もそれを見ながらああこうなるのね、というところがあります。まず科学館事業には中核事業と地域拠点事業と2つあり、まず展示活動としては企画展と常設展、それとラボで行われている参加体験型学習と大きく3つに分かれるのかなと思っております。やはり科学館の魅力ということを維持する、進化させるということについては、常設展示の充実というのが基本的には求められると思います。ただし、昨年3月に1億円をかけて展示更新を大幅に行った訳で、更にそれに予算をかけるということは基本的には難しいなと。ただしどこか変わっているということを実現するにはどうしたらいいかということ考えたときに、企画展が26、27、28年度で各3回ずつ計9回開催される訳ですが、企画展の成果物を常設展示化する、あるいは新規の展示物が加わり、標本、映像コンテンツの充実ということにもなりますし、装置の改良、模型等の展示、解説パネルの充実もあるのかなと。常設展示にフィードバックできるような企画展も考慮に入れながら、企画展の企画をしましょうと。ただその時に各展示室を充実させるポイントは何かなということと考えますと、チャレンジの部屋では今買い物ゲームというものがあって物質が何かということをやっています。例えばここに各惑星を加えて惑星の成分を加えてみたり、チャレンジの部屋と言っておきながらどんな人物がチャレンジしたんだというようなことにまだ触れられていないので、人物的なことをニュートンとかガリレオとか、初期に科学にチャレンジしていった人物に焦点を当てたような解説を加えたらどうかなと思っております。それからからだの部屋については、進化の動物園とい

うのがかなり人気のある展示なんですね。これは単細胞から人間の体にどうなって進化したのかということで非常にいいプログラムなので、それについても充実する、バージョンアップしていくということも考えています。そのほかに音響の部屋の活用なんかももう少し何かないのかなと考えています。それからしくみの部屋においては、最も基本的な電磁誘導とか電気と磁気、コンピューターとプログラムというようなものがないのでそういうものを少し追加していきたいなど、それから自然の部屋にいきますが、これは非常に現状でバランスのよくとれた展示になっているというふうに思っております。近隣の方々からいろいろな標本の寄附のお申し出などもありますので、コレクションの充実というのを図り、活用していければいいかなと考えております。それから地球の部屋については、今後の地域リテラシーを言っていくときに、武蔵野台地の様子というものをより分かりやすくするために、水と緑のネットワークというのを冬の企画展でやったんですけども、中身の発信的なものをやるとか、それと付加体という日本列島を作って、なおかつ今南海トラフとかですね、東北地方の3.11の地震、プレートテクトニクスなどの項目が興味の対象になっておりますので、足していけたらいいかなと思っております。それから天文については、今年度も多摩六都圏域内、三鷹と青梅ですね、よくご利用いただいている小学校の校庭のパノラマ等を出しているんですね。これの追加を少し考えています。それから連携系というのでメーカーさんなどが持っているコンテンツを利用できないかということも考えています。それからもう一つ、連携系ドームマスターというのをご覧になったかもしませんが、キトラ古墳というキラコンテンツがあるんですね、これがあと二年後ぐらいに明日香村にセンターができるんですね、NHKさんなんかもキトラ古墳を扱った番組を作ろうとしているので、そのようなことも頭に入れながら、ドームマスターの連携もしてみたいと思います。それから懸案になっているのがつながり展示なんですね、からだの部屋、しくみの部屋、しぜんの部屋、地球の部屋につながり展示があり、これらで地域のつながりが深くなればと思います。今予定しているのがしくみの部屋で、西東京市にありますシチズン時計さんの協力を申し出ていただいております、時計のしくみ的なものの展示に展開していこうかなと思っております。これもある程度近隣との連携を強めるのと、それから一体何をすればいいのか、その部屋で何をすべきなのかということを決めて、これをやるぞというような3年間の計画を立てなければいけないなど。

それから地域拠点事業の中で、科学リテラシーという言葉に対して、地域リテラシーという言葉を使いまして、それとからめた地域の方々との連携をしぜんの部屋や地球の部屋でやっていきたいと考えております。それから今一番多いお客様はファミリー層なんですね、圧倒的に多いです。ですから、ファミリー層をきっちり捉え続けていくのが一つは重要なことなんだなと思ひまして、それに対する体験プログラムやクイズラリーなどはやはり充実して更新しているとは思ひうんですけども、例えば、中学生やシニアといった層に対しては現在の展示手法で来館していただけるのかといったこともマーケティング的にはやらなければいけないなというふうに思ひおひまして、たとえば展示ガイドツアー的なものも検討した方がいいなと思ひています。これも人の手当てができないとできないこ

となので、具体的にはどうするんだということになりますが、ラボでのお客様とのコミュニケーションというのはかなり進んでいるんですが、展示室全体でのコミュニケーションに広げていくにはこういう展示ガイドツアー的なことをやっていく必要があるなど。そのためには、展示室ごとのストーリーブック、展示物同士のつながりだとか、この部屋では何を言おうとしているのかといったことをまとめたものなんですけど、今8割出来上がっています。これも早めにまとめて展示ツアー的なことを検討していきたいと考えています。この辺りがシニア層の開発に具体的ににつながるのかなと考えています。それと中学校や大学での研修でお見えになることがあるのですが、各部屋のつながり的なものをきっちりお話しすると、やっぱりご理解いただけるようなんですね。そのようなことをヒントにこれを考えてみました。それからコミュニケーション型のプログラム開発、運営ですがこのポイントとしては、現状ラボや学習室でのプログラムが100ぐらいあるんですけども、これについてそれぞれのプログラムでどのような科学リテラシーが育成できるのか地域リテラシーが育成できるのかといったことの自己評価を今年度中にできるものはやって、来年度のPDCAのサイクルに流して、より効果の高いものにしていきたいと思っています。

それとここで開発したプログラムというものは、多摩島しょや多摩地域だけではなくて、「実感を伴う理解」を科学館に教育界は求めている訳なので、そういうプログラムをあるところで公開していくというようなことも必要になってくるのかなと思います。これが一つは多摩六都科学館の価値を広げることにつながるのかなと思っています。それから調査研究、収集保存活動なんですけれども、やはり国立の博物館クラスの調査研究を目指すのは難しいかなと思っています。これまでやってきた地域に関連した中身については、地域の学校と連携するとか地域の市民団体の方と連携するとか、多摩信用金庫さんが多摩のあゆみというのを出して地域の資源の発掘を長い間行っています。ただそれも科学館として連携させていただいて、科学館の視点からあるところをまとめてガイドブック的なものをまとめることは出来るのかなと思っています。やっていきたいなと思っています。

それから地域拠点事業にいきますが、コミュニケーション・プラットフォームなんて難しい言葉を使っていますので説明します。(2ページ)博物館は何をすることで聞かれたときに博物館を説明するときに使われた言葉で、理解が得られたので定着してきた。ただし、それでいいのという話があって、その後開かれた博物館とかコミュニケーションだとか言われるようになった。一方利用者側から博物館を情報蓄積型の社会機関として見た場合、そこに期待するものは文化の持続継承、豊かな社会の維持、豊かな人生への期待で、従来の技術、知識、情報についても博物館内部にある資源という位置づけであったが地域に存在する博物館外の資源も含めて社会的資源として利用可能とする考え、この場合社会資源にかかわる人々、これは地域の人々を指しますが、学校とか研究所等のセンターとかセクターをつなぐ場、機能、コミュニケーション・プラットフォームを提供できることが新たな機能として科学館には期待されていますということが博物館経営論で亀谷先生が書かれています。このコミュニケーション・プラットフォーム機能が、地域拠点事業を考えると非常に重要な要素になってきます。地域拠点事業を行うということは、コ

コミュニケーション・プラットフォームを形成することですよというふうに捉えました。事業計画の後ろの方に戻って①、②とありますが、上位計画でいうと一番最初のページの図になりますが、中央に大きな丸、科学館事業（中核事業）があり、その周りに地域拠点事業があります。これまでも地域に関連した事業というのは、多摩六都科学館でも延々と行ってきております。それがどちらかというと②科学館拠点の狭義の地域拠点事業、それからコミュニケーション・プラットフォームということを目指す全体的な考え方としては①全域型地域拠点事業があります。たとえばどんなことをやれるか可能なことと言えば、広域助成事業というのが東京都等でも進めておられて、応募して通れば予算がついて自主的な活動ができます。25年度は「水と緑のネットワーク」ということで圏域の自然を巡ってきました。これで圏域の市民の方々とかかなり強いネットワークが築けました。そういう積み重ねがあってコミュニケーション・プラットフォームが出来てくるのかなと思っていて、継続して助成事業をとってテーマを決めていく。26年度は、地域の企業さんのものづくりの現場をお訪ねし、企業連携や市民の自然環境系の方々とのネットワークを肅々と進めていって、コミュニケーション・プラットフォームを作っていこうかなと思います。去年は「地域づくり人（びと）」という総務省の予算をもらい、これのセミナーを行いました。桧森先生にもご講義いただき、非常に評判のよかった講座でした。ただし、お金が続かないと、継続できないのですが、一度ネットワークができれば人のネットワークはなかなか切れませんので、そういったことを積み重ねていこうかなと思います。そんな中で今年の事業計画を考えたということになります。

長) 皆さん何かご意見ありますか。こういうところをもう少しというのがあれば、皆さんのご意見をいただければと思います。ご説明ありがとうございました。

委) では、最初のところで位置づけや組み立てがはっきりしなくてもやもやしているというのがありますが、中長期計画、基本計画をブレイクダウンさせるのと、もともとあった事業計画、指定管理提案時のものをどのように整合するかということにご苦労されているようなのですが、A3横の資料の中期で重点的に取り組む戦略やそれを示す業績指標というのにあたる、実際に運営する指定管理者側としての中身を集約させたのが3か年のアクションプランという位置づけでよろしいですか。

組) 3か年のアクションプランというのはどちらかというと10年計画からおろしてきているほうが強いので、逆にこれを毎年度の指定管理者の事業計画とすり合わせていってどう結び付けるかというのがこれからの作業なんですけど、平成26年度も試行的にその辺を行っています。

委) 現場としての時期の捉え方というのか、リアリティがあると思うんですね。目指すものがあるのでそこをうまく整合をとりつつ組合側も指定管理者側も関わる様々な方々があ

る種ロードマップのようなものを共有していないと自分たちは何をやっているんだとなってしまうのではないかと、それをやった成果を我々は評価するんですよね、それと言っているのが重点目標としては何で、これは先々何につながっていくのか、基本計画の事業目標が5つある中の、どこなんだということが分からないので、その辺の整理がまだ必要な感じがしています。平成26年度の事業評価をするときには今までのスタイルというよりは、むしろA3横の最後のページのように中期的な実績評価を想定されているのかもしれないんですけども、重点的な指標を中心に年度の評価も外部評価もしていくのか、我々はこれをどう捉えて評価をしていくのかももう少し説明してください。

組) フォーマット表にありますのは、各年度の推移を見たいというのが一番大きいです。実は上位計画のものはたして本当に3年でできるのかということが多々ありますので、3年かけてどこまで達成できるのか、到達できるのかという努力目標が多分入っております。ですので、それが各年度で発展していつているのか、向上しているのかというのを見るべく見えるようにしたい、先ほど桧森先生のお話にもありましたように、改良・改善を絶え間なく行っていつているという姿勢そのものが見えないといけないので、どうしても単年度でやっていると年度の話で終わってしまうということがありましたので、今年度はここまで、来年度はここまでというのが少しでも見えたらいいなと思ひ、作成したのがこの中期・実績評価一覧のフォーマット案の表です。できれば今後は3か年の推移を中心に事業評価は単年度ごとの結論にはなりますけれども見ていつていただけたらと思ひます。

基本計画受託者) 少し補足を。今佐々木委員からご質問いただいた内容ですけれども、年度ごとの事業報告は受ける訳ですが、評価委員会での評価というのは今ある事業目標ごとに大きな観点から評価していただけたらと思ひています。それによつて中期・長期の観点からどれくらい科学館をよりよい方向に持つていくことができているだろうかということの評価していつけるような形に持つていきたくと思ひています。ですから、単年度ごとの結果を見るのではなく、長期的・中期的な姿を共有しながら評価をし、目標管理をしていつたらというふうに思ひしております。ただ、まだ始まつたばかりで手さぐり状態にありますので、今年度は試行的にやつて来年度から本格的に事業評価ができるようにしていきたくと思ひています。廣澤さんがご説明して下さつた3か年アクションプランについては、まだまだ案をまつめて下さつた段階なので、この後も進めながら少しずつ変わつていくと思ひます。そういうプランとして見ていただけたらと思ひます。ですから年度の途中でまた変わるかもしれないし、外部環境が変わつたら、また来年度は見直しがかかっているかもしれないというようなアクションプランだと考えていただけたらと思ひます。

長) 定量的に示せるような年度ごとの目標もあれば、コミュニケーション・プラットフォームのように点数に表せられないような定性的に近いものもあつて、3年でどういふよう

なところまで持っていったらいいのか、そういうのが出てくると、今年度はここまでだからよかったとか、ここは全然足りなかったというような評価が出てくるのかもしれませんがね。今までは単年度評価で今期の目標と今期の結果ということを見てきましたが、つながりのあるような目標設定があれば、それに沿った評価というものも、まあ全部そううまく行くかは分からないのですが。

基本計画受託者) コミュニケーション・プラットフォームについても、10年の計画にはそのような言葉は出てきていませんので、指定管理者さんの事業方針としてまとめていくのはいいと思うのですがけれども、上位計画にその言葉を使うかといったら、それは考えていないとお話ししておきたいと思います。言葉の使い方については慎重に使っていききたいというふうに思います。ただ、指定管理者さんの言葉を使うことによってより動きやすいのであれば、それはいいのではないかなと思います。

委) 組合が承認するこの枠組み、フレームのレベルの話と、指定管理者側の現場を持っているオペレーションを中心に発していく話の整合がやはりとれないと。3か年のアクションプランは現場発の発想でこうやらなければならないものと、重点的に具体的に何に取り組んでいくのかというところを配置していただくということをしていく。指定管理者ってそういうものだと思うんですね。その枠と中身を見えるような形にしないと、働いている人間が自分たちは何をしているんだという、その辺が課題だと思います。

基本計画受託者) その辺の整合を取っているところですので、今日お示したところをこれから進めていくにしたがって今年度中にまた少し整理をする可能性も高いというふうに思っていた方が良いでしょうと思います。

組) 関連して平成26年度指定管理者事業計画書の16ページを見ていただきますと、その辺の整理のちょうど途中なのですが、中核事業と地域拠点事業がどういう関係なのかをマトリックスにしてもらいました。中核事業をやっていく中で地域の拠点、交流事業がありますね、そしてこのクロスしてきたところにどういう事業がぶら下がっているかということ現場の方たちで整理していただいて、それがもうちょっと網羅的になってくるとどっちに軸足を置いていったらいいのかということがもう少し分かりやすくなっていくのかなと思います。

指) 現場をやっていると、どっちに進んだらいいのかどっちに進むのということが分からなくなっていて、今回組合さんと話してこのようにマトリックスになって重なってもいいんだよねとまとめてみました。

委) やり方はどちらであってもこれらの成果が上がれば良い訳なので、悩んでいてもしよ

うがない、やって成果が上がればいいので、書類作りに頭を悩ませているのがちょっと奇妙な感じがします。うまく言えないのですけれども、少なくとも基本計画の5つの事業目標に対して今年度、3か年はこれをこういうふうにして、特に今年度はこういう成果が出たというのを示していただく、シンプルに考えていった方が良くないかなと思います。

指) 研究交流グループであれば、サイエンスチーム、自然チーム、天文チームと3チームあるわけです。その展示事業であれば、3チームに対してあなたのところはこれですよというふうに落とさなければいけないですし、逆に言えば上がってきたものもありますから、この事業はここに入れましょうというのを整理しないとだめなので、入りきらなかったり、この文言にぴたっとはまらないよねというのはまだあるにはあります。ただ大まかにはこれまでの科学館の中核事業というのはコミュニケーションを大切にした **Do!**サイエンスでいきますよということで、科学館だけで科学館単独でその事業を行おうと思ってもそれは無理だから、学校等と連携したら報告書をきちんと出すとかそのレベルにしないとしたりしています。ただやっぱり、多摩六都科学館というのは地域の科学館という性質を非常に強く持っているので、科学だけやっていますというだけではだめですし、重点的な中核事業、地域拠点事業というのを日々みんなが意識して活動していかなければいけないと。マーケティングというのが今までの博物館や科学館では発達していないというのがありますが、どんな商品、プログラムをお届けするのかということに関しては、約2年間プログラムを開発して実地でやってきていて、その時の生の反応というものがあるわけなので形にはなっていないかもしれませんが、その場その場で改良になっているわけですよ。一年の間に最初のプログラムと最後のプログラムでは品質も変わってきているわけで、そういうことを自覚しなさいといってもそれはなかなか難しいことなので、そこで自分なりの評価、科学館なりの評価をやっていけば、中核事業は参加体験型、コミュニケーションを中心としたゆるぎのないものになっていくと思います。それとお客様の滞在時間が伸びていますから、そういうのを肌で感じているはずだと思います。

基本計画受託者) ちょっとだけ付け加えさせていただくと、指定管理者に提示している業務基準書はこのような枠組みになっていないんですよ。ですから、この3か年はそれを整えながら進めていき、その活動が地域拠点事業というような形で最後は示していただくといいのですけれども、ですからそれほどどうしてもきちんとやりなさいというようなものではなくて、協力していただきながらそれをやっていって、平成29年度からの指定管理期間ではきちんと組合の方で業務基準としてまとめて進めていくということになると思いますので、今はテストランのような形で進めるしかないと思っています。そういう観点からきちっとした形で出てこない可能性があるけれども、そういった視点で評価をしていただけたらありがたいなと思います。

長) 全部のイメージが伝わっているわけではないのですけれども、科学館としては四六時中

お客さんが来て対応していかなければいけないし、満足度が落ちないように注意しながら、長期に渡った方向性というのを現場の人も意識しながら少しずつ改良なり新しいアイデアを入れていくということはやっぱり大事だと思います。そういう訳できれいに分かりやすい形に整理するには時間がかかるかもしれないけれども、ある程度の年度に渡った目標というのをどういう観点からこの事業はこういうふうにやっているというのを現場の人にも分かるような形でやっていくのがいいと思いますけれども。

委) よろしいですか。たまたま今うちの学生が、多摩六都科学館が地域活性化にどう寄与できるかということを研究していて、こちらにもおじゃましているんですけども、せっかくこれだけの施設があって、それがただ子どもたちに対する科学教育の普及ということだけではなくて、地域の活性化に寄与できるのではないかという仮説を持って彼らは調べているんですが、地域の活性化というと、経済の活性化かコミュニティの活性化の2つがあり、経済の活性化はこの辺りではありえない、いくらここにお客さんが来てもこの辺りの地域が潤うということは考えられないんですけども、コミュニティの活性化ということを見ると、先ほどコミュニケーション・プラットフォームという概念が出てきましたが、ここでの活動をして地域の中のつながりがどう生まれていくのかということがあれば、コミュニティの活性化に寄与したことになるということになります。具体的なそのつながりの部分、どういう人がどういう形でつながって活性化するのかというのをもう少し具体的に、多少は試行錯誤でやるしかないんだと思うんですけども、そういうふうに考えていったらよろしいんじゃないかと思います。ちなみにうちの学生の結論は、多摩六都科学館は非常に進んでいるから、これを持って行って他の科学館に提言しようと思っっているようなんですけども、それは少し早いんじゃないかなと言っていて。

長) そういう立場から見ていただける、そういうグループが桧森先生のところにあるというのが科学館にとって励みになるというか、いい指標をそこから出していただければいいんじゃないかなと思います。

委) どうなるか分からないんですけども。

長) そういう目で見れば、新しく見えるところが出てくるんじゃないかなと思います。こちらでやっているのは、そういう意識がなくずっと何もしなければ毎日毎日のことを進めてしまう、そういう立場から見ると、こういうところが抜けているんじゃないかとかこういう成果が出ているんじゃないかとかそういうものが見えてくるんじゃないかという気がするんですね。そういう形での連携というのは非常に重要だと思います。

では、基本計画もこのような形で進めていくということですから、頑張ってくださいと思います。続いて、事務局から今後の説明をお願いします。

4 その他

組) 今年度は今回の委員会で主要な審議事項が決定されましたので、特段の事情がない限り、次回開催は予定しておりません。しかし、これから夏季の繁忙期を控え、特別企画展などの多彩なプログラムが充実してまいりますので、ぜひ事業評価委員の皆さまのご視察をお願いしたいと思います。先ほど皆さまのお机にご招待券を配布させていただきましたので、ご利用をお願いいたします。

次に、今回の会議資料とともに同封させていただきましたが、第4期の事業評価委員の皆さまの任期が7月16日までとなります。前回の会議終了後にお一人ずつ次期事業評価委員について再任のご依頼をしたところですが、引き続き全委員の皆さまがお引き受けくださるということで、誠にありがとうございます。委嘱状については、本来は皆さまにご持参してお手渡しすべきところではございますが、後程各委員の皆さま宛てに管理者からの委嘱状を送付させていただきたいと考えておりますが、そのような形でよろしいでしょうか。

長) よろしいですね。

組) ありがとうございます。すでに承諾書をご提出いただきました委員の皆さま、どうもありがとうございます。他の委員の皆さまにつきましては、所属所長さまのご判断などがおありかと思っておりますので、そちらが整いましたら、同封させていただきました封筒で承諾書を組合宛てにお送りいただきますようお願い申し上げます。今後とも、委員会運営にご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

長) 以上で、本日の議題はすべて終了したのですけれども、本年度の委員会はこれで終了ということになります。現場を見ずに評価をしているという感じがしているので、これではまずいかなというふうに思っています。委員が個別に見学してもいいんですけれども、皆さんが集まれる機会があれば、現場を見てその後意見交換をすることができればというようなことをやったらどうかなと思っています。事務局の方でどういう時に来たらよいかということを考えて日程調整していただいて、今年の委員会は2回ということですが、今年度もう一回くらいそのような機会を持っていただけたらと思います。いかがでしょうか。

委) 同意

長) 現場を見学して意見交換ということができるとと思いますのでぜひよろしくお願いいたします。長時間にわたりおつかれさまでした。これで閉会といたします。ありがとうございました。